



～働き方変革が求められる今だからこそ～ テレワークを導入する上で必要なプロセス

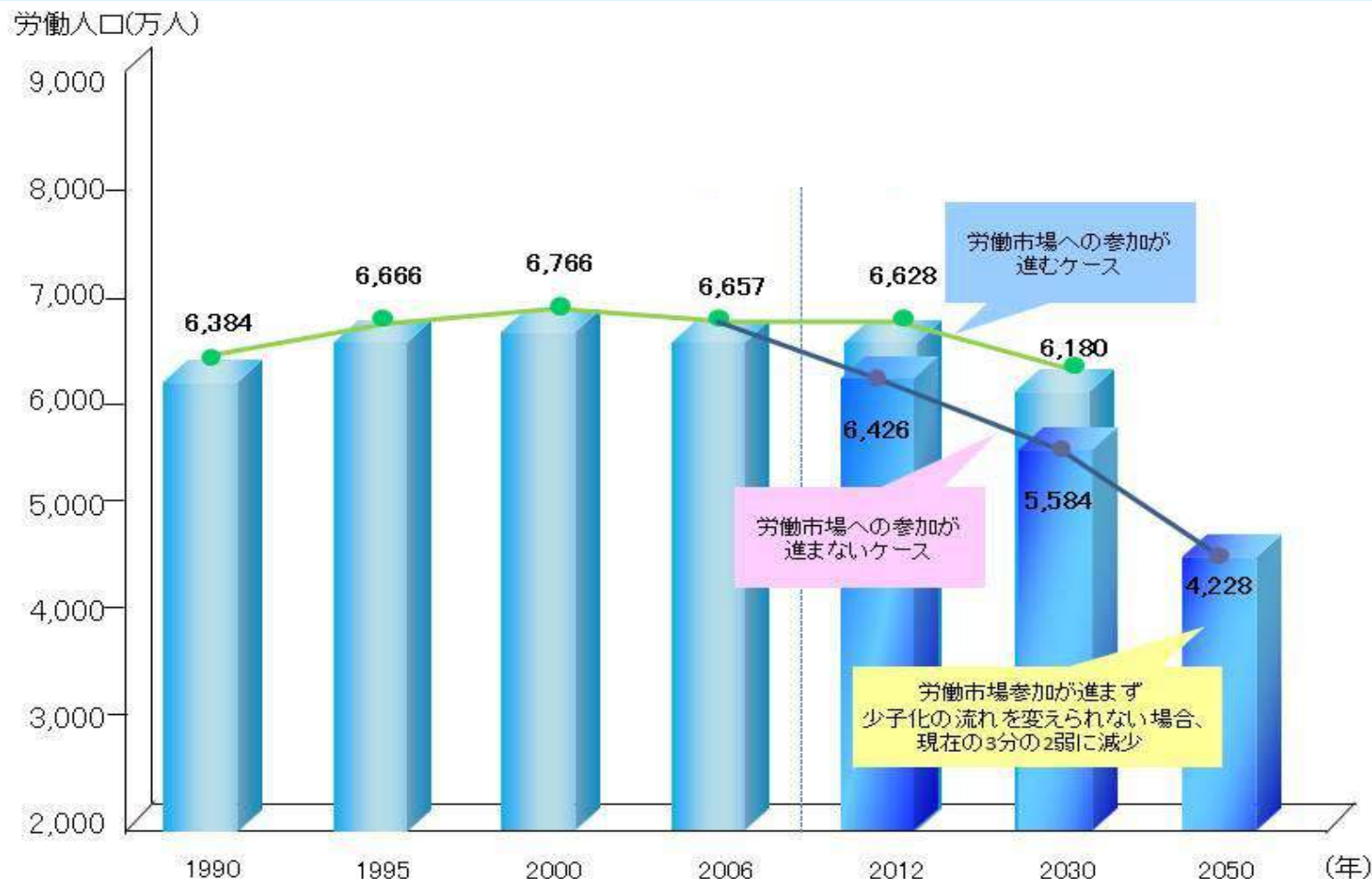
コニカミノルタジャパン株式会社

小谷 信幸

- ① なぜ、テレワークなのか？**
- ② テレワークはどのように進めれば良いのか？**
- ③ テレワークの課題とICTによる解決方法**
- ④ 弊社の働き方変革支援、構築サービス**

- ① なぜ、テレワークなのか？**
- ② テレワークはどのように進めれば良いのか？
- ③ テレワークの課題とICTによる解決方法
- ④ 弊社の働き方変革支援、構築サービス

女性等の社会進出が進まなければ日本の労働人口は3分の2に減少



出生率を上げるのはもちろん、女性の社会進出、若者の就労率など、様々な問題を解決しなければ、お子さまの世代が大人になったとき、日本の労働力は著しく減少すると予想されています。

欧米やアジア各国と比較して日本企業での働き方がどのように特殊なのか

- 仕事を通じて仕事を学び、自己啓発しない
- 女性管理職が少ない、外国社員も少ない
- 年次有給休暇の取得率が低い
- 仕事や育児などを楽しんでいない、自分の会社に誇りを持っていない
- 全てにおいて、ネガティブシンキングである

出典：日本の人事部「HRカンファレンス2015-秋-」開催レポート



高度成長期は、この働き方が成長の原動力であったが、少子高齢化、価値観の変化、グローバル競争、創造性が求められるビジネス拡大においては、これまでの働き方が弊害に！

課題に応じた 働き方の変革が重要

効率性/生産性
向上

リスク
マネジメント

人材の獲得
・維持

企業にとっても、従業員にとっても
高度な知的生産力を発揮する為の、
環境が必要となる

効率化/生産性の向上

リスクマネジメント

人財獲得/維持

自社に合った働き方変革の方針の明確化

働き方変革実行支援コンサルティング

紙に縛られない働き方の実現

文書管理・運用の見直し



紙文書のデジタル化



稟議決裁ワークの効率化



文書管理・利活用



「働き方変革」自社実践
ノウハウの提供

時間、場所に縛られない働き方

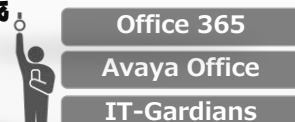
情報共有



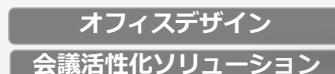
印刷業務の効率化



コミュニケーションの円滑化



オフィス内での柔軟な働き方



※1 一般的には『働き方改革』ですが、コニカミノルタジャパンでは、『働き方変革』と謳っています。

効率化/生産性の向上

リスクマネジメント

人財獲得/維持

自社に合った働き方変革の方針の明確化

働き方変革実行支援コンサルティング

紙に縛られない働き方の実現

文書管理・運用の見直し



紙文書のデジタル化



Dispatcher P

稟議決裁ワーク
の効率化



アジャイルワークス
X-point

文書管理・利活用



CrossLead
OnBase

時間,場所に縛られない働き方

情報共有



Office 365
SharePoint
INFO Palette
Cloud

印刷業務の効率化



コミュニケーション
円滑化

Office 365
Avaya Office
IT-Gardians

SafeQ

SmarterESAME
L114
ユーザー認証
BOX

オフィス内での柔軟な働き方

オフィスデザイン
会議活性化ソリューション



「働き方変革」自社実践
ノウハウの提供

テレワーク

※1 一般的には『働き方改革』ですが、コニカミノルタジャパンでは、『働き方変革』と謳っています。

テレワークの導入状況と効果（企業）

企業において、テレワークを導入している又は具体的な導入予定があるのは、16.6%。

導入している又は
導入予定
16.6%

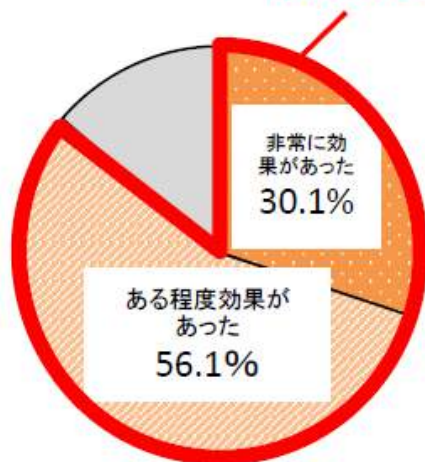
導入している
13.3%
導入予定がある
3.3%

企業の従業員規模別の差異

- ・従業員数300人以上の企業： 32.3%
- ・従業員数300人未満の企業： 10.9%

テレワーク導入目的に対する効果について、「効果があった」と回答した企業の割合は86.2%。

非常に効果があった 又は
ある程度効果があった
86.2%



※ 出典：総務省 平成28 年通信利用動向調査の結果（6月8日）

業種別テレワーカーの割合※1

◆ 平成28年（2016年）

	n数	テレワーカー割合	テレワーカー数
情報通信	1,814	32.3%	586
建設業	2,108	16.2%	341
製造業	6,825	15.3%	1,044
金融・保険業	1,602	15.0%	240
農林水産・鉱業	216	14.8%	32
不動産業	705	13.2%	93
サービス業	10,319	11.5%	1,187
公務員	2,612	11.4%	298
卸・小売業・飲食業	4,690	11.3%	530
運輸業	1,896	7.3%	138
その他	2,957	9.3%	275

WEB調査登録者
からランダム抽出

◆ 平成32年（2020年）

目標テレワーカー割合
97%
49%
46%
45%
44%
40%
35%
34%
34%
22%
28%

政府設定
KPI倍率
3倍※2

単純には差分が今後の業種毎の市場

※1 出典：国土交通省「平成28年度テレワーク人口実態調査（6月8日）」

※2 出典：世界最先端IT国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画について（5月30日）」

早期から取り組みを行い、その内容・効果を積極的に発信



2014年

本社移転

- ・全国事業所無線LAN統一化
- ・全国事業所デジタルサイネージ配信開始
- ・本社ビルフリーアドレス開始
- Liveオフィスショールームツアー開始



2016年



全社員(情報機器部門)
スーパーフレックス導入

テレワークトライアル実施

保管文書ゼロ化運用開始

九州支店/大阪支社ショールーム
リニューアル

日本テレワーク先駆者百選



2013年

働き方変革プロジェクト発足



2015年

全社外勤者(情報機器部門)
スーパーフレックス導入

保管文書ゼロ化専任組織立上

中部支社リニューアル

ダイバーシティ推進PT立上

- ・サテライトオフィス拡充
- ・Microsoftテレワーク週間賛同



2017年

全社員(情報機器部門)

テレワーク本格運用開始

テレワーク推進賞奨励賞



- ① なぜ、テレワークなのか？
- ② テレワークはどのように進めれば良いのか？**
- ③ テレワークの課題とICTによる解決方法
- ④ 弊社の働き方変革支援、構築サービス

- テレワークとは、情報通信技術(ICT = Information and Communication Technology)を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方

※ 「tele = 離れた所」と「work = 働く」をあわせた造語

在宅勤務

自宅にいて、会社とはパソコンとインターネット、電話、ファクスで連絡をとる働き方。



自宅

サテライトオフィス勤務

勤務先以外のオフィススペースでパソコンなどを利用した働き方。一社専用で社内LANがつながるスポットオフィス、専用サテライト、数社の共同サテライト、レンタルオフィスなど



拠点

モバイルワーク

顧客先や移動中に、パソコンや携帯電話を使う働き方。

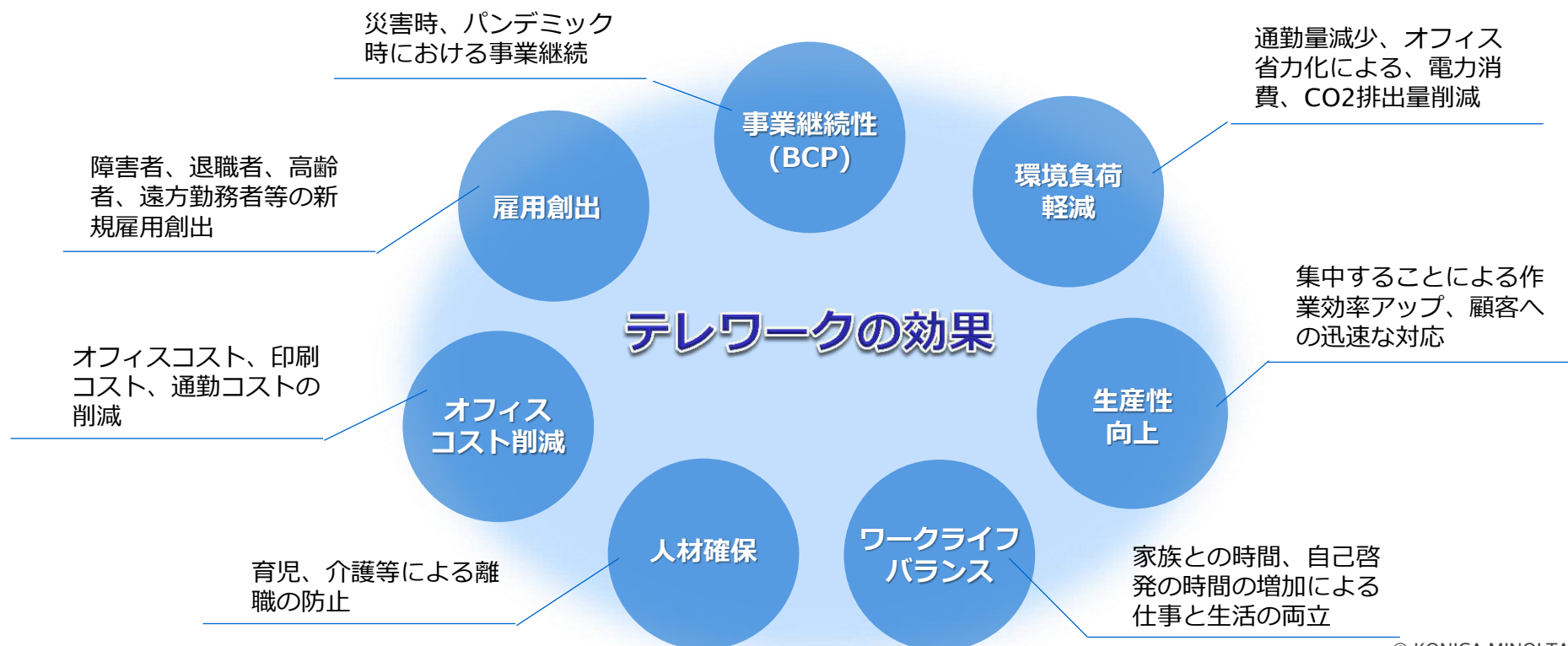


モバイル

※対象者例

- ✓ 妊娠・育児・介護などの理由、身体障害、あるいはケガなどにより、恒常的または一時的に通勤が困難な人
- ✓ 企画・総務・人事・経理などの管理部門、研究・開発部門の人
- ✓ 部分在宅勤務主体(週に数日在宅勤務)、出張時のモバイルワークも適する。
- ✓ 営業やSE、サポートサービスなどの顧客対応業務の人

- テレワークの効果は、大きく7つに集約
- テレワーク導入済みの多くの企業では、計画的に、戦略的にテレワークを導入し、様々な課題の解決を図っている
- テレワークは、環境負荷軽減や雇用創出など、社会にとっても大きな効果



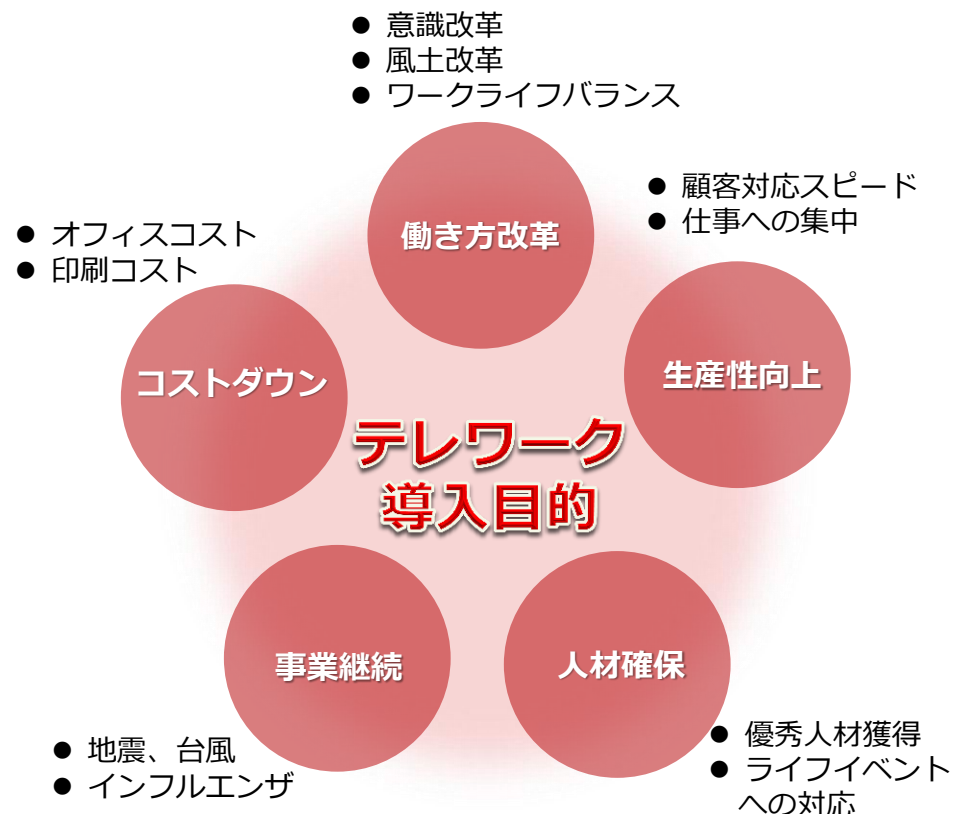
● 事業運用面

- ✓ 人材の確保・育成
- ✓ 業務プロセスの革新
- ✓ 事業継続

● 雇用面

- ✓ 育児・介護等の家庭責任を担う人材の離職抑制
- ✓ 働き方の変革による生産性向上
- ✓ 従業員のワーク・ライフ・バランスの向上

テレワークを導入することで、
どのような効果を得たいのか？
目的を明確にする(組織により異なる)



コニカミノルタ

ES,CS向上

事業継続性

人材確保

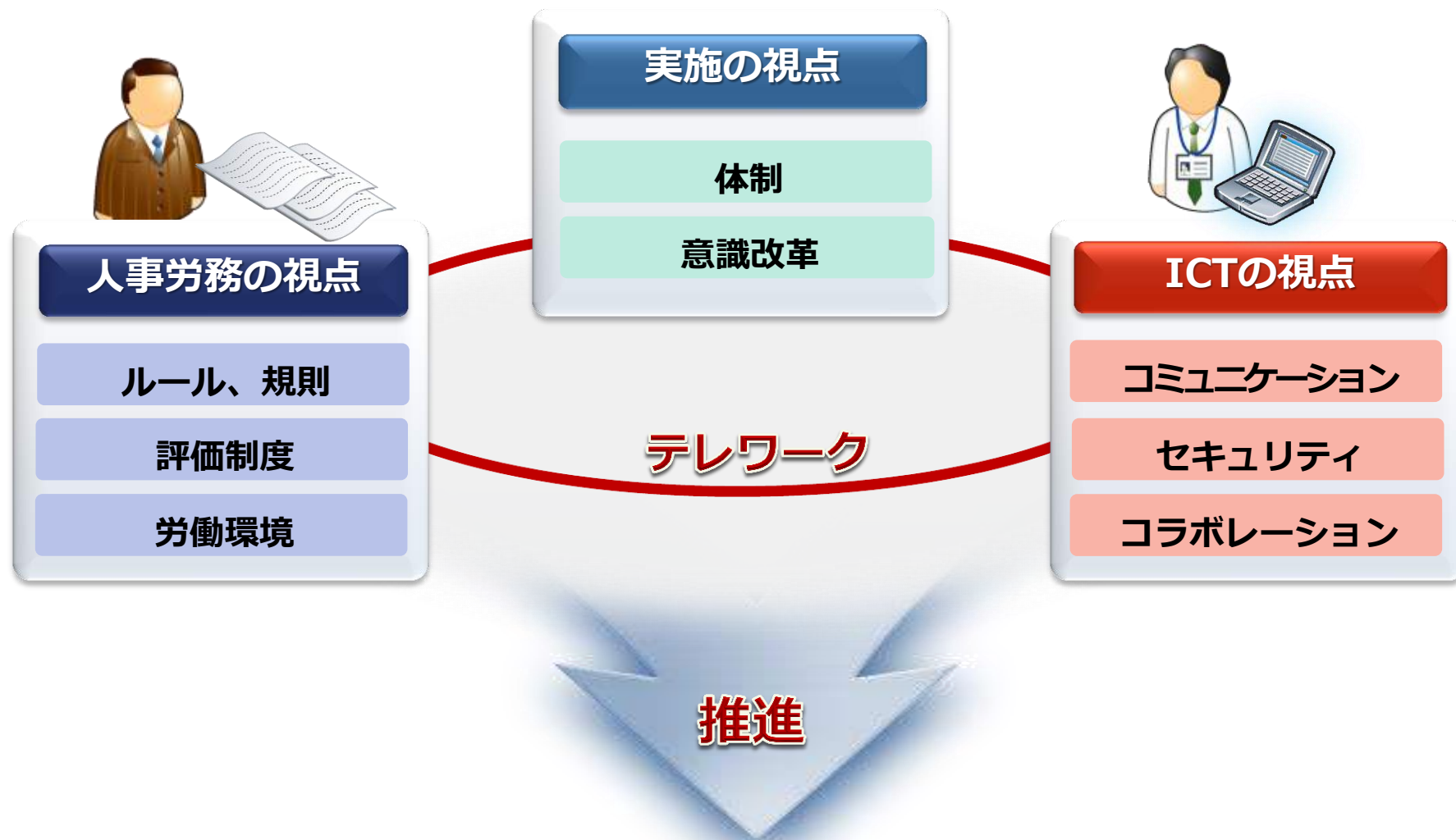
経営者視点

業務効率の向上
オフィスコスト削減
企業イメージの向上

従業員視点

ワークライフバランスの向上
通勤負担の軽減

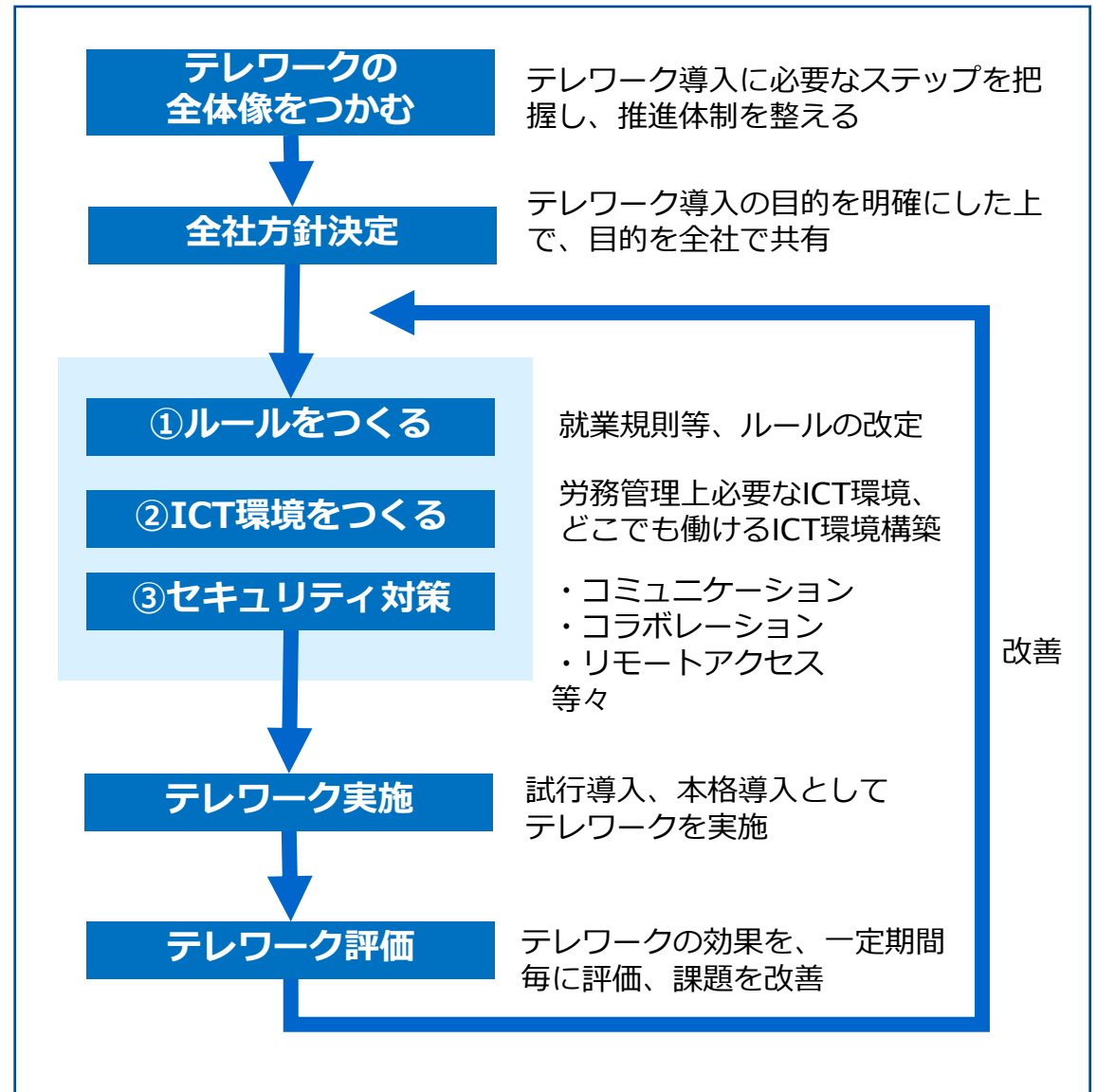
- 3つの視点を意識して進める必要がある



- **テレワーク導入には、適切なプロセスを踏む必要がある**

- ✓ 強固な推進体制の構築
- ✓ 経営Topがリーダーとなり、全社横断的な体制が必要
- ✓ ICT環境を整えるだけではダメ
- ✓ 人事、評価制度含めたルール作りが必要
- ✓ PDCAサイクルを回す

いきなり大きく始めるのではなく小さく始め、評価し改善、順次対象範囲を拡大していくことがポイント！



- まずは、導入範囲を決める。現行の社内制度やルールを維持したまま、できるところからトライアルを行い、少しずつ範囲を広げていく

■ 対象者

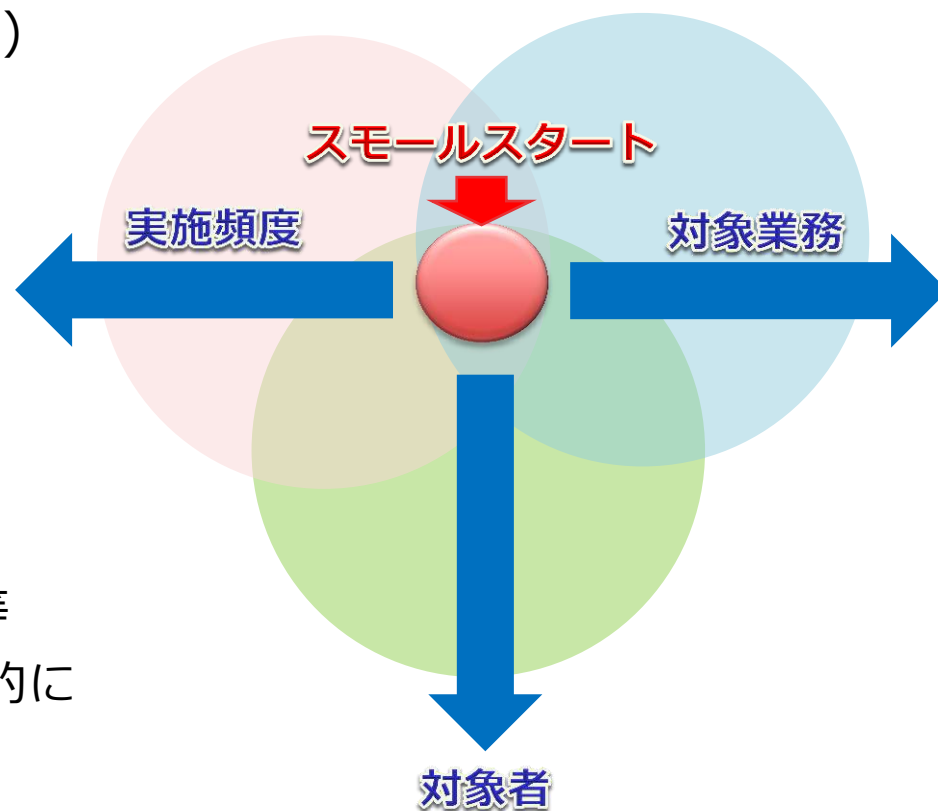
- ✓ 従業員ランク(自立行動可能)
- ✓ 職種(職種毎に導入形態が異なる)
- ✓ 要育児、要介護

■ 対象業務

- ✓ テレワークでも実施可能か
- ✓ コミュニケーション量
- ✓ セキュリティリスク

■ 実施頻度

- ✓ トライアルにおいては、週1日等
- ✓ 実施後の評価、課題解決で段階的に増加。



- 推進は部門を超えた議論が必要になるため、トップダウンで進めるほうが進みやすい



推進は経営トップが
リーダになることが理想。
全社横断的な体制作りが必要

コニカミノルタ

2017年 8月 15日 原口社長
従業員のES 向上と企業の成長を共に実現し、
社会に誇れる「働き方変革」実践企業を目指しましょう。

2017年 8月 24日 本部長
17年度 働き方変革 本部長宣言
スローガン: 『ワークライフバランスで豊かな人生を！』
ESの低い会社、高いCSは望めない



- **就業規則と勤務規定**
 - ✓ 在宅勤務に関する規定
 - ✓ 在宅勤務の労働時間に関する規定
 - ✓ 通信費、電気代等の負担に関する規定
- **労働時間管理**
 - ✓ 通常の労働時間管理制度適用が多い
- **人事評価制度**
 - ✓ 評価制度は変わらない
 - ✓ 公正な評価と目標管理
- **作業環境**
 - ✓ VDT (Visual Display Terminals)作業が中心、照明、換気、騒音
- **労災**
 - ✓ 通常の就業者と同様
 - ✓ 業務と傷病に一定の因果関係があれば認定



コニカミノルタ

スーパーフレックス制度の導入

- ✓ コアタイムのないフレックスタイム制度を導入。
- ✓ 営業職、SE職より先行導入し1年後に全従業員に適用。
- ✓ 導入により、従業員はより計画的な時間運用へ。

テレワークの実施ルール(弊社の事例)

● 実施の申請と承認

- ✓ 事前に上長に申請(メール)、承認

● 労働時間管理

- ✓ Outlookにテレワーク予定を記載
- ✓ 開始時に開始連絡(メール)
- ✓ 終了時に終了連絡(メール)
- ✓ 実施内容も記載

● コミュニケーション

- ✓ 常にコミュニケーションツール (Skype for Business)を起動させ、連絡が取れる体制にしている。

● 通信費、電気代

- ✓ 個人負担



The image shows a screenshot of an Outlook calendar and a Skype for Business chat window. The Outlook calendar displays a weekly view with a red box highlighting a 'テレワーク' (Telework) event. A callout box points to this event with the text 'Outlookに事前に記載' (Recorded in Outlook in advance). Another callout box points to the calendar with the text '予定は色分けして社内なのか、社外かを判別できるように' (Plans are color-coded to distinguish between internal and external). The Skype for Business chat window shows a conversation between NOBUYUKI KOTANI and YOUHEI SHIBATA. The chat history includes messages about a meeting and a PM update.

- ① なぜ、テレワークなのか？
- ② テレワークはどのように進めれば良いのか？
- ③ テレワークの課題とICTによる解決方法**
- ④ 弊社の働き方変革支援、構築サービス

いつでもどこでも働ける環境への不安・課題

コミュニケーションの課題

①場所・距離の壁により
コミュニケーション
が取りにくい

②顔が見えないので、
相手の状況が
わからない

④ちゃんと働いている
のかわからない

③テレワークの進め方
社内ルールなどが
わからない

ルール・管理の課題

コラボレーションの課題

⑤チームセリング、
グループワークが
できなくなるのでは？

⑥社内に居れば
伝わる情報が
届かないのでは？

⑦チームのベクトルが
合うのか？
指示の効率が低下
するのでは？

⑧PC盗難、
情報漏えいが心配

セキュリティの課題



いつでもどこでも働ける環境への不安・課題

コミュニケーションの課題

①場所・距離の壁により
コミュニケーション
が取りにくい

②顔が見えないので、
相手の状況が
わからない

④ちゃんと働いている
のかわからない

③テレワークの進め方
社内ルールなどが
わからない

ルール・管理の課題

コラボレーションの課題

⑤チームセリング、
グループワークが
できなくなるのでは？

⑥社内に居れば
伝わる情報が
届かないのでは？

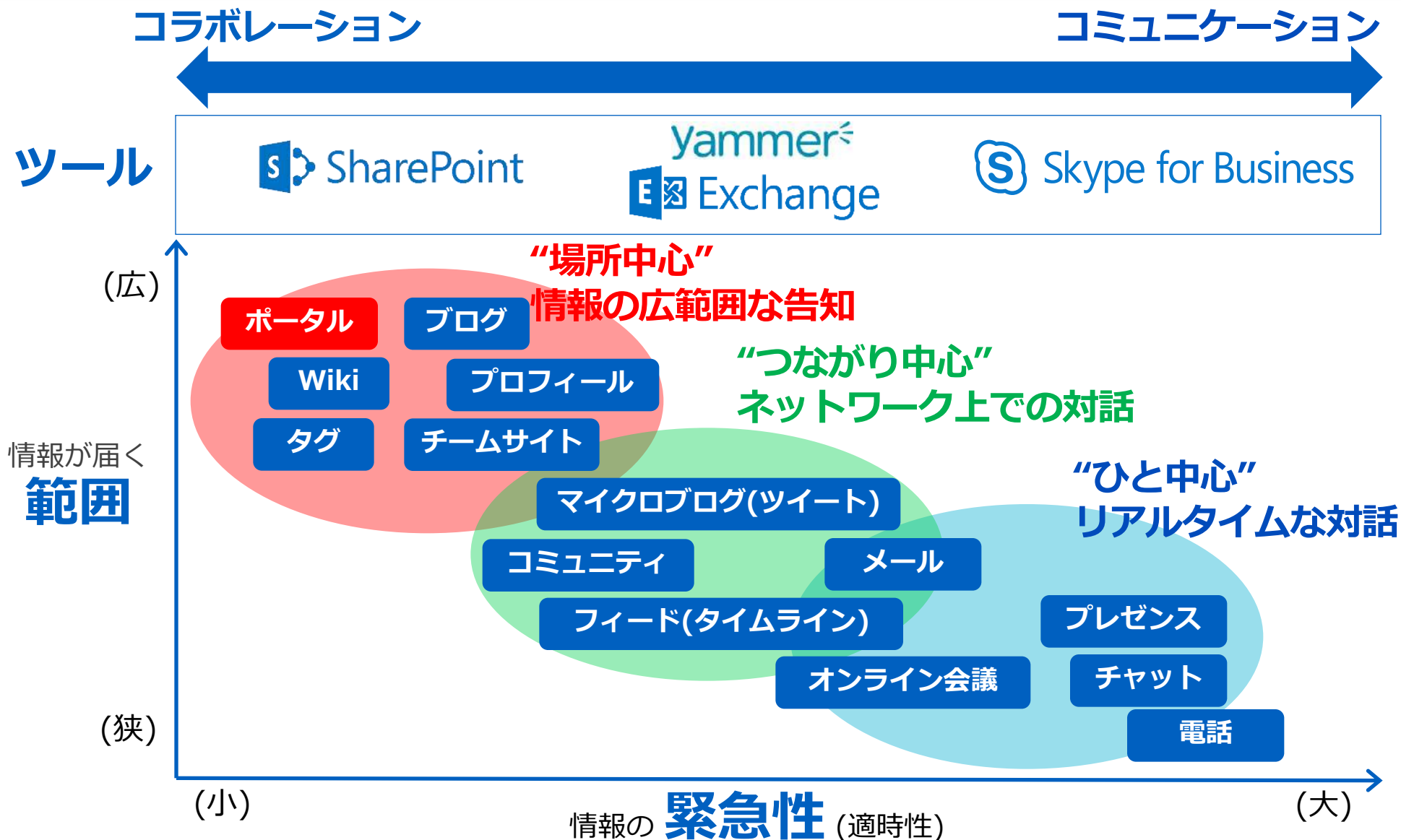
⑦チームのベクトルが
合うのか？
指示の効率が低下
するのでは？

⑧PC盗難、
情報漏えいが心配

セキュリティの課題



情報伝達のスコープとOffice 365ツールの関係



● プレゼンスを利用し最適なコミュニケーションを選択



自分のプレゼンス



PCの利用状況で相手の在籍状態を把握
Outlookの予定表も自動反映

プレゼンスにより、
相手側の現在の状態が把握可能

- 状況を瞬時に把握して、相手と最適な方法で連絡
- 相手と連絡ができるプレゼンスになったら通知を受けることも可能
- 相手の状況に合わせられるため、効率的で繊細なコミュニケーションが実現

連絡可能
すべてのコミュニケーション手段が可能

取り込み中
会議中
メールかチャットでコミュニケーション

退席中
メールでのコミュニケーション

プレゼンスは各種サービスからも確認可能

Outlookから
プレゼンス確認



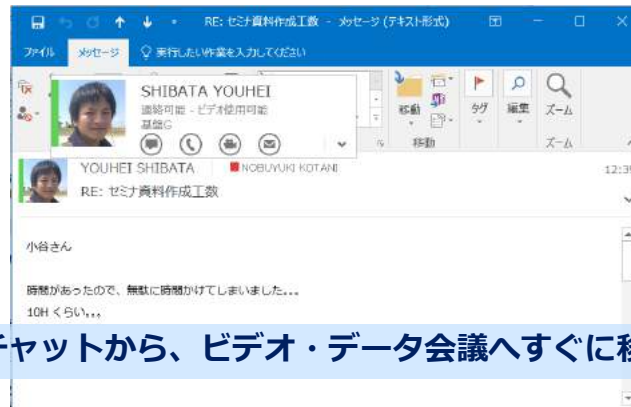
SharePointから
プレゼンス確認



● 速やかなコミュニケーション手段のエスカレーション



メールを見て、すぐに連絡ができることがわかる



チャットから、ビデオ・データ会議へすぐに移行

ビデオ会議を
開催



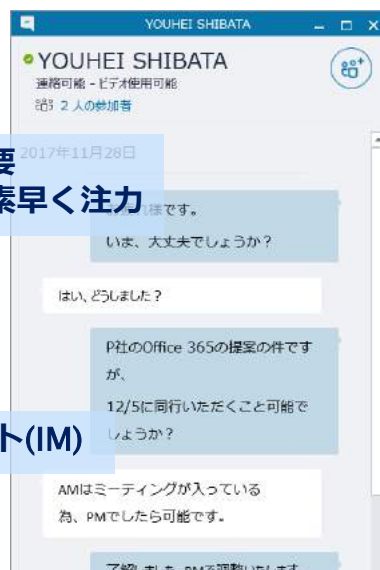
データ会議に
移行



資料をアップして共有

余計な手間や認証は不要
コミュニケーションに素早く注力

チャット(IM)



● Exchange/Outlookで簡単に会議を開催



会議の調整は、会議参加者と会議室をまとめて調整
会議開催が送られるので、相手の意思が確認可能
社内の会議室を使う会議も、Web会議も、同じ手順で利用

出席者

会議室

会議可能な時間帯を自動計算
白色：会議可能
薄い青：大多数が出席可
濃い青：会議不可

利用可能な会議室

設定可能な時間帯

クリック一つで、Web会議室を作成

→ Skype 会議への参加
これは、プロフェッショナルな会議やコミュニケーション用の
アプリ Skype for Business (旧称: Lync) のオンライン会議です。
初めて Skype 会議に参加する場合、

Co., Ltd.

時間が来たら通知され、忘れずに参加が可能

● 組織内外での情報共有

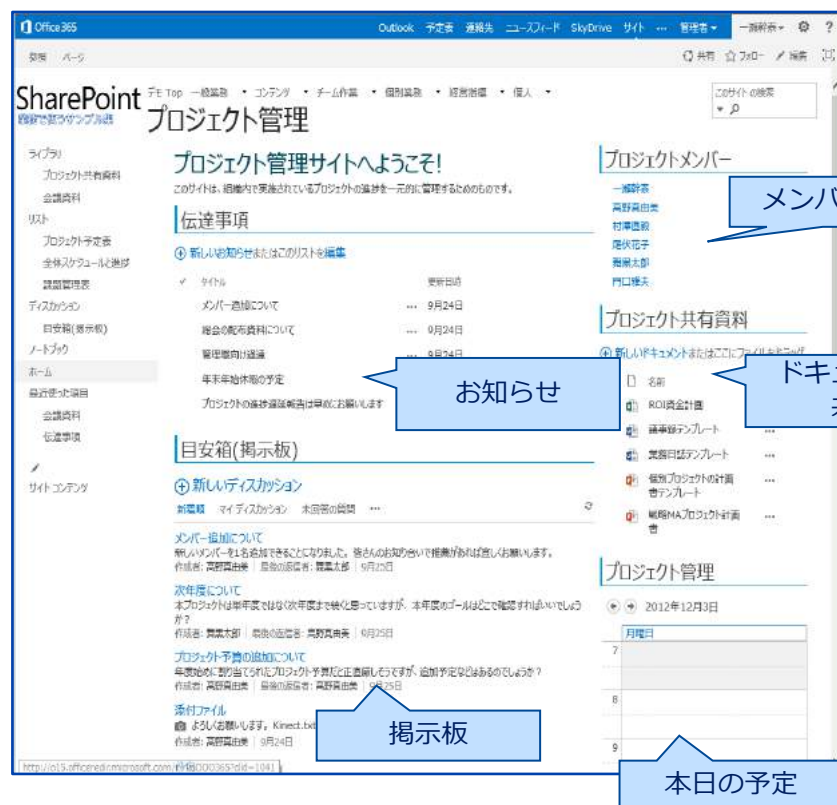


部門を超えた情報共有

- ・グループサイト
- ・プロジェクトサイト

社外との情報共有

認証・匿名での公開、アクセス権の設定により、参照・編集・ブラウザのみでの表示など、柔軟な権限付与が可能

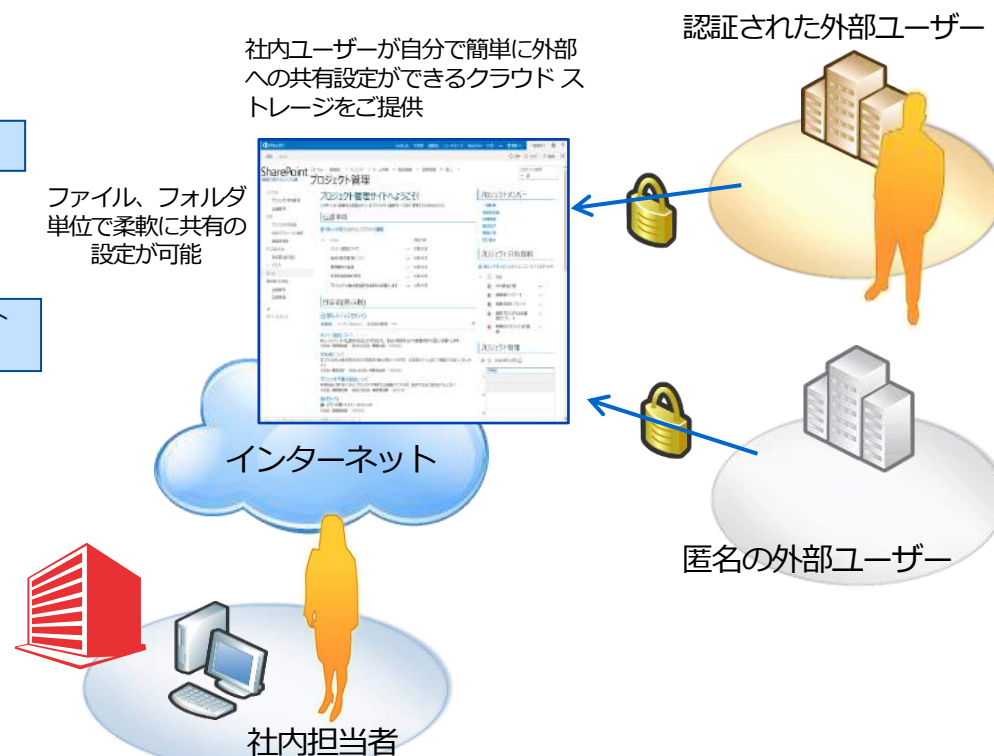


The screenshot shows a SharePoint 'Project Management' site. Annotations point to various features:

- メンバー一覧** (Member List): Points to the 'Project Members' section on the right.
- お知らせ** (Notice): Points to the 'Announcements' section in the center.
- ドキュメント共有** (Document Sharing): Points to the 'Project Shared Resources' section on the right.
- 掲示板** (Bulletin Board): Points to the 'New Discussion' section at the bottom left.
- 本日の予定** (Today's Schedule): Points to the 'Project Management' calendar at the bottom right.

社内ユーザーが自分で簡単に外部への共有設定ができるクラウドストレージをご提供

ファイル、フォルダ単位で柔軟に共有の設定が可能



いつでもどこでも働ける環境への不安・課題

コミュニケーションの課題

①場所・距離の壁により
コミュニケーション
が取りにくい

②顔が見えないので、
相手の状況が
わからない

④ちゃんと働いている
のかわからない

③テレワークの進め方
社内ルールなどが
わからない

ルール・管理の課題

コラボレーションの課題

⑤チームセリング、
グループワークが
できなくなるのでは？

⑥社内に居れば
伝わる情報が
届かないのでは？

⑦チームのベクトルが
合うのか？
指示の効率が低下
するのでは？

⑧PC盗難、
情報漏えいが心配

セキュリティの課題



● 社内業務へのアクセスをセキュアに

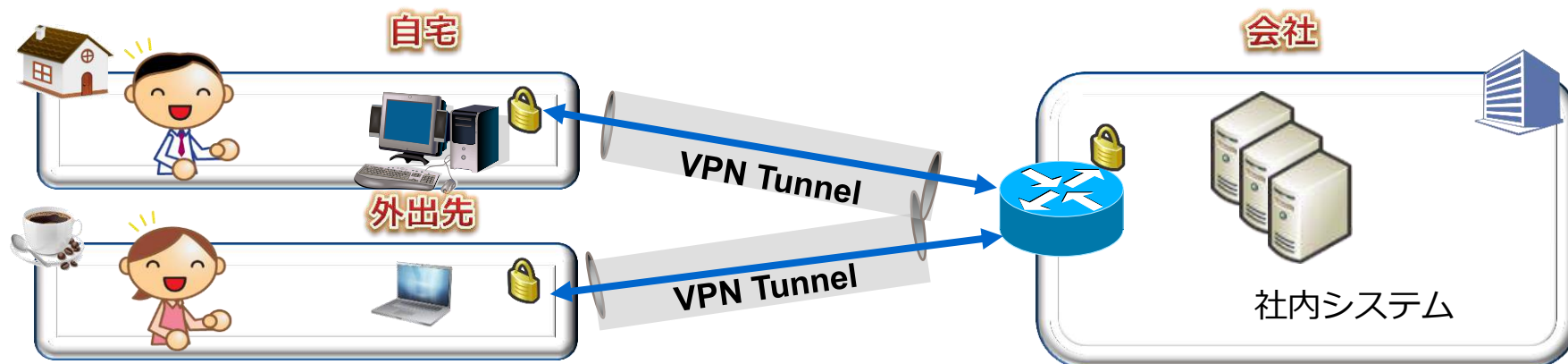
BEFORE

- 外出時の事務処理→外出していたけど、事務処理の為に帰社しないといけない…
- 様々な家庭事情の中での仕事→働く意欲も時間もあるのに育児や介護の為に家から離れられず仕事を休まなければいけない…
- リモートアクセス時の不安→クラウドサービスはいいけど、社内サーバーはホントに大丈夫？



AFTER(TO BE)

- VPNによりインターネットさえ使える環境があれば、いつでもどこでも仕事が可能に！
- 場所がどこでも社内システムの利用が可能に！
- 強固な暗号化により、セキュアに！さらにオプションで証明書認証やVPN接続用のワンタイムパスワード認証なども可能！



- PCにデータを残さなければ、万が一PCを紛失しても漏洩の心配なし

- シンククライアントシステム

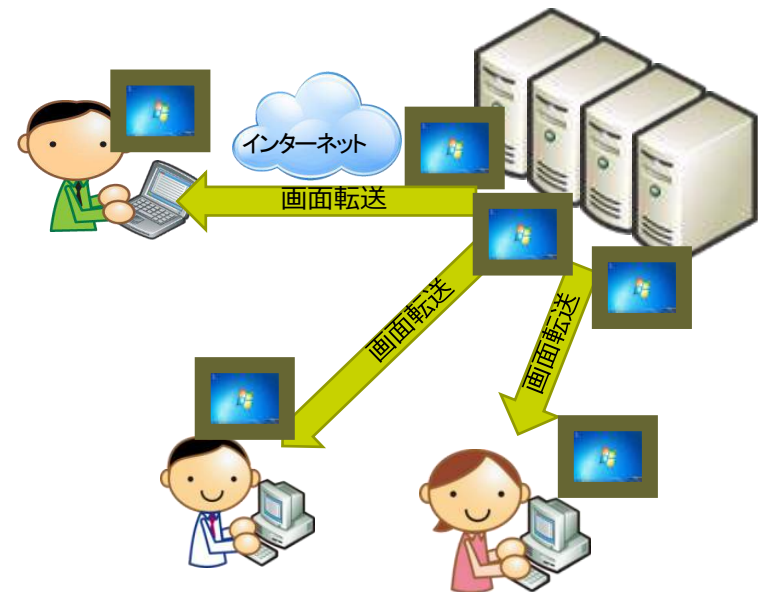
- ✓ ユーザーが使用する端末（クライアント端末）の機能は必要最小限にとどめ、サーバー側で処理を行いデータを永続的にクライアントに保持しない形態。
- ✓ サーバ側で処理された結果を、画面転送プロトコルにより、画面イメージのみクライアント端末に転送。

- シンククライアント端末

- ✓ リソースを最小限に抑えた機器に専用OSを搭載し、不要なサービスやモジュールが削除されている端末。

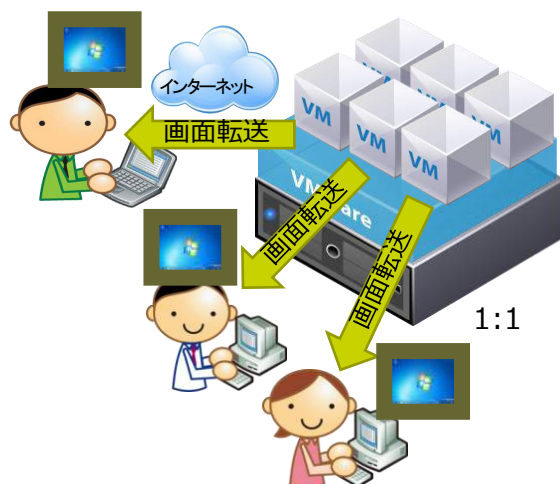
実現できること

- ✓ 外出先からの社内システムへのセキュアな接続
- ✓ 持ち出し端末紛失時の情報漏えい対策
- ✓ パッチ適用やAP管理の一元化
- ✓ BYODやマルチデバイス対応
- ✓ インターネット接続端末の限定



● シンククライアントの種類

仮想デスクトップ型

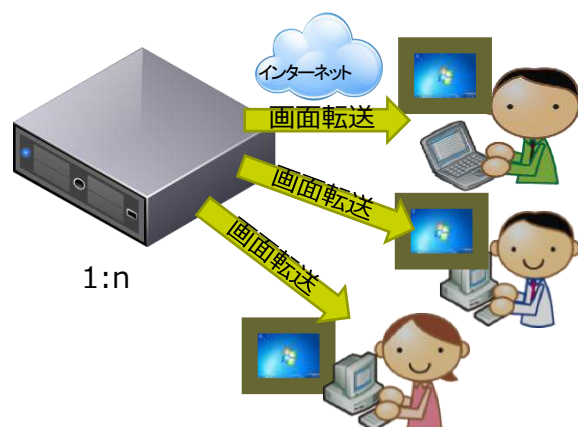


× コスト

◎ セキュリティ

△ 利便性

ターミナルサーバ型

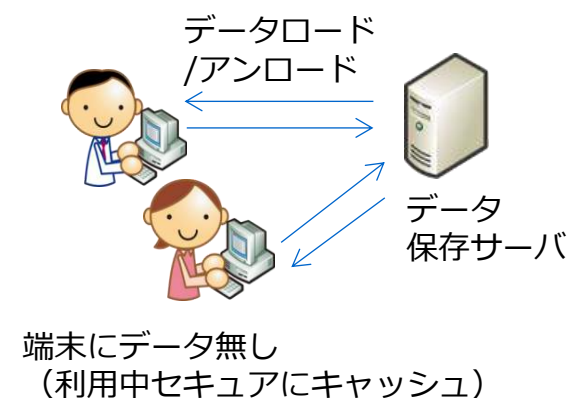


△ コスト

○ セキュリティ

△ 利便性

ハイブリッド型



◎ コスト

○ セキュリティ

◎ 利便性

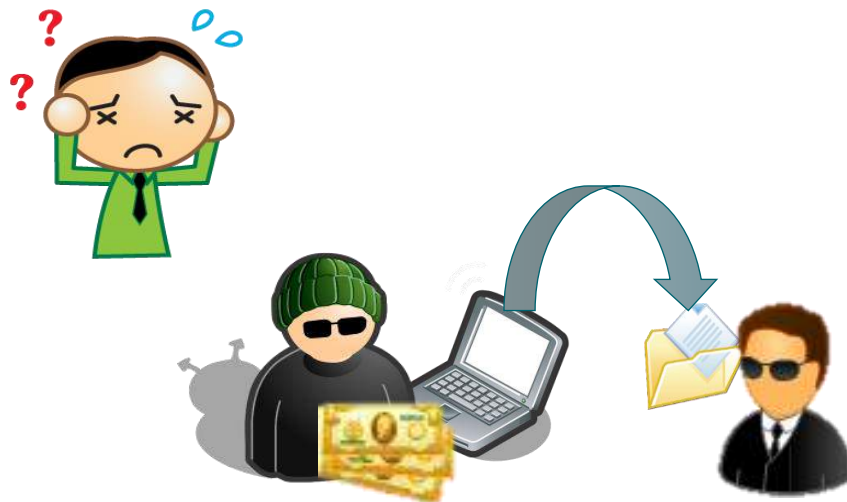
- 万が一、PCを紛失しても、データにアクセスできないように！

BEFORE

- 暗号化が実装されていないPCを持ち運ぶ
- 紛失時にはWindowsパスワードのみがセキュリティ対策となっている
- 悪意ある人間により、PC内のデータが盗まれてしまうことも

AFTER(TO BE)

- 第三者による不正なデータ読み出しを困難に
- PC起動時に暗号化パスワードとWindowsパスワードの二重対策が可能に



いつでもどこでも働ける環境への不安・課題

コミュニケーションの課題

①場所・距離の壁により
コミュニケーション
が取りにくい

②顔が見えないので、
相手の状況が
わからない

④ちゃんと働いている
のかわからない

③テレワークの進め方
社内ルールなどが
わからない

ルール・管理の課題

コラボレーションの課題

⑤チームセリング、
グループワークが
できなくなるのでは？

⑥社内に居れば
伝わる情報が
届かないのでは？

⑦チームのベクトルが
合うのか？
指示の効率が低下
するのでは？

⑧PC盗難、
情報漏えいが心配

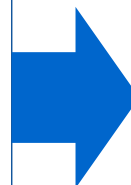
セキュリティの課題



● ちゃんと仕事しているのか？管理者がチェック

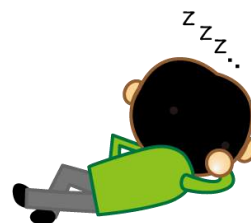
BEFORE

- テレワーク運用開始したが、同僚、グループメンバーの状況がわからない。電話していいものかどうか。(ユーザの立場)
- テレワークを許可したが、本当に仕事しているのだろうか。サボってないか。(管理者の立場)



AFTER (TO BE)

- プレゼンス情報(アクティブ、退席中、オフライン)をリアルタイムに状態確認可能。
- 社員のPC画面を監視。何をしているかを管理者が確認可能。



社員のデスクトップ画面を一覧表示

組織階層に合わせた表示が可能。オプションにより社員のデスクトップに接続も可能。

※Skysea は、統合クライアント運用管理ソフトウェアで多様な機能を保持しています。

部門を超えた自由でスピーディな情報共有。
効率的でムダを省いた働き方、情報・知識の共有化。



コニカミノルタジャパン社員の1日(例)

フリーアドレス&無線LAN

朝 会社に出社



フリーアドレス
関連するプロジェクトメンバーで集まる
無線LAN & Noteなのでどこでもよい

子供お迎え



自宅

VPN接続



プレゼンス&チャット

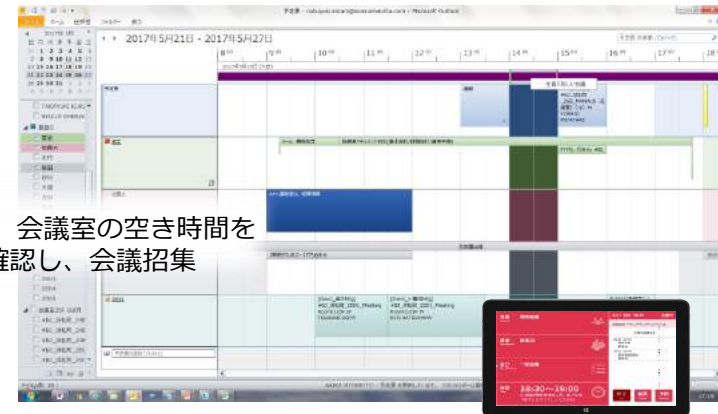
大阪のメンバに確認が必要に
プレゼンスを見ると在席



チャット開始

スケジュール確認と会議招集、会議室予約

会議招集
参加ユーザ、会議室の空き時間を
Outlookで確認し、会議招集



会議資料はSharePointに格納

部屋前端末と連携

資料共有



会議15分前にアラート



東京本社



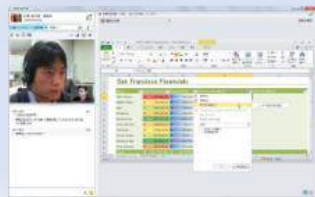
関西
支社



カフェからVPN接続



オンライン会議



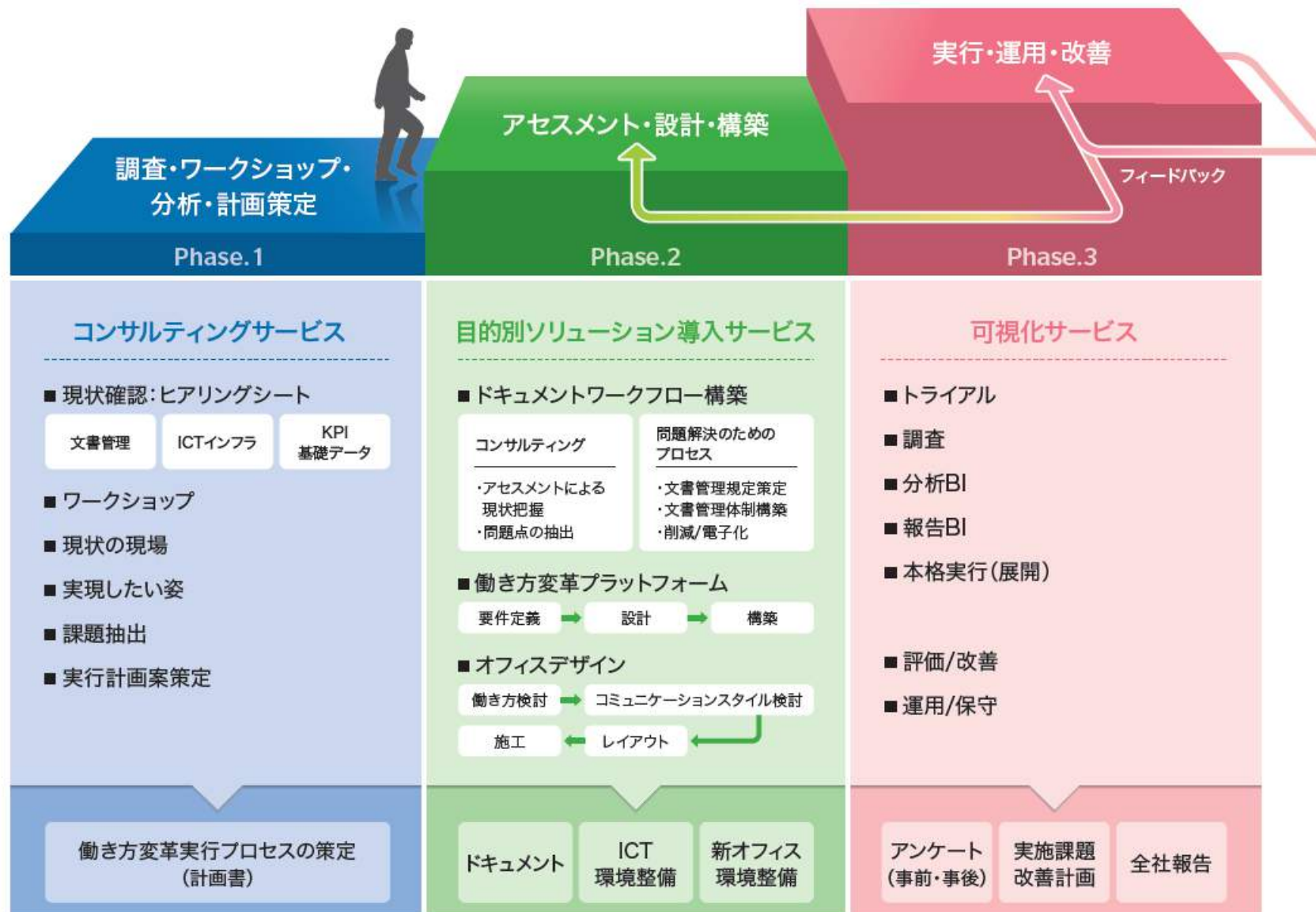
外出

ActiveSync

メールはiPhoneで確認



- ① なぜ、テレワークなのか？
- ② テレワークはどのように進めれば良いのか？
- ③ テレワークの課題とICTによる解決方法
- ④ 弊社の働き方変革支援、構築サービス**



● テレワークでの働き方に即したソリューション

Exchange メールシステム構築

- Exchange の設計、構築、保守
- 旧メールシステムからの移行作業

Skype for Business コミュニケーションシステム構築

- Skype for Business の設計、構築

Office 365 シングルサインオン構築

- 社内ActiveDirectoryとのシングルサインオン
- 他ソリューション(HDEOne等)との連携

SharePoint Onlineを活用した 情報共有基盤構築ソリューション

アセスメント

- ①ビジネス要件の整理
-あるべき姿の定義
- ②情報資産の整理
-棚卸、カテゴライズ

目的を明確にし、情報
資産の整理を行う。

バリューチェーンを意
識した設計

情報を能動的に探す
文化から、受動的に
気づく仕組みへ

サイト設計

サイト構築

機能要件だけでサイトを構築しても、真の情報共有基盤にはなりません。コニカミノルタはアセスメントを通して、お客様の目的にあった最適な情報共有基盤を提供します。

Office 365 Office 365を活用した 会議効率化ソリューション

会議の有り方そのものを見直し、本当に必要な会議だけをITツールを積極的に活用して効率よく実施

会議の見直し

現状把握

再設計

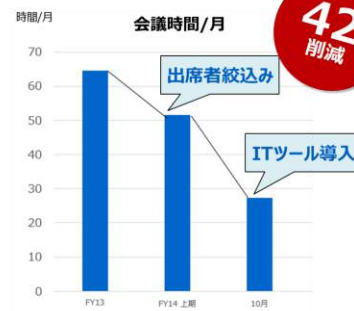
ICT活用

Office 365

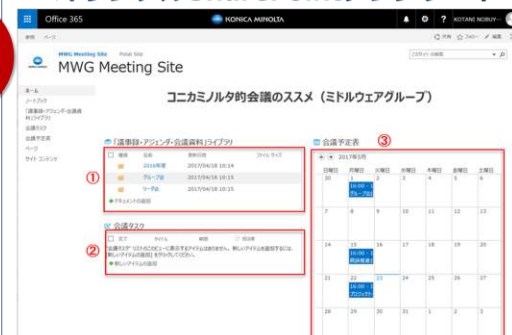
評価

効率測定

★コニカミノルタ自社実践



会議を活性化する オリジナルSharePointテンプレート



入退室管理

- ・会議室の使用状況表示
- ・会議室予約の延長処理
- ・会議室の即時予約
- ・自動キャンセル
- ・会議終了前アラーム

入退室管理



一般ユーザー

会議室設定用端末

- ・予約状況/利用実績ログ出力
- ・会議室/端末の登録
- ・会議室端末の導入/設定
- ・予約一覧表示用のグループを作成

施設予約



一般ユーザー

施設予約 (@社内・社外)

- ・空き検索
- ・施設予約

施設予約管理システム

管理画面



管理者

スケジュール確認



受付者/一般ユーザー

会議室利用状況の確認 (社員利用PC/スマホ)

- ・全会議室の
予約状況を確認

働き方変革は コニカミノルタにお任せください！

ワークスタイルの変革は
コニカミノルタにお任せ下さい！



ご清聴ありがとうございました。



KONICA MINOLTA